

# 平成30年全国及び岡山県学力・学習状況調査結果 結果と今後の取組について

津山市教育委員会学校教育課

## 全国学力・学習状況調査 平均正答率 【対象:小3年生・4年生・5年生】単位%

教科	H30 小学校(6年)			H30 中学校(3年)		
	国語	算数	理科	国語	数学	理科
全国	70.7	54.7	63.5	51.5	60.3	62.2
岡山県	70.8	54.3	62.1	49.7	60.1	60.6
津山市	67.5	50.5	60.1	45.3	57.6	56.8
対差	△0.3	△3.8	△2.0	△4.4	△2.5	△0.6

## 岡山県学力・学習状況調査 平均正答率 【対象:小3・4・6年生 中学校1・2年生】単位%

教科	H30 小学校(3年)			H30 小学校(4年)			H30 小学校(5年)			
	国語	算数	理科	国語	算数	理科	国語	算数	理科	
全国	75.8	60.4	57.2	74.4	77.7	65.8	69.6	70.8	64.5	72.9
岡山県	76.0	60.1	57.2	73.5	77.6	62.6	68.7	69.9	63.3	74.7
津山市	73.0	58.1	52.9	70.5	75.2	48.8	64.8	66.2	57.2	71.7
対差	△3.0	△2.4	△3.0	△2.4	△3.5	△4.8	△1.3	△3.7	△6.1	△3.0

＜学力状況調査＞  
 ○学力調査については、小、中学校ともすべての教科で岡山県平均を下回っている。  
 ○既に習得した知識や技能を活用して解決を図る設問に課題が見られた。  
 ○小学校では、昨年と同様、低学年（1・2年）でつまずきの解消に課題が見られ、基礎基本の徹底ができていない。また、活用力についても県との差は開いている。  
 ○学年が上がるごとに、つまずきの解消は見られるが、県との差は縮まっていない。  
 ○数直線からの読み取りや少数の仕組みや数の大きさや相対的に捉える問題、図形の性質を見出しそれを用いて図形を構成する問題、場面を式に表現するなど数量関係を図と関連づける問題、日常生活と関連する問題等には、依然として課題が見られる。  
 ○文章のあらすじを捉え相手に的確に伝えるように「書く」設問や、事柄が成り立つ理由を構想し、数学的に説明することにかんじり課題が見られた。  
 ○算数では、多くの設問で平均正答率が県平均を下回っている。特に、関数（比例、反比例）表、グラフなどによって表し、特徴を理解したり、表とグラフの特徴について、それらを関連付けたりすることにかんじり課題が見られる。  
 ○基礎的分野については、改善のきざしが見始めているが、確かな学力をつけるため、授業改善や補充学習のさらなる充実に加え、家庭学習の時間の確保に力を入れる必要がある。  
 ○英語においては、全領域（聞くこと、読むこと、書くこと）で県平均を大きく下回っている。今後、授業の進め方を含めて、早急な対策が必要である。

## 調査結果の分析

### 「全国学力・学習状況調査(小6・中3)」「岡山県学力・学習状況調査(小6・中1・2)」の質問紙において特徴が見られた項目

#### 全国学力・学習状況調査

大学校の授業以外に、音楽(月～金曜日)、1日あたりどれくらい勉強をしますか。(1日1回以上1時間以上する)

学年	小学校			中学校		
	H26	H27	H28	H26	H27	H28
全国	62.0	62.7	62.5	64.4	66.6	67.9
岡山県	65.0	65.1	65.6	71.0	72.2	68.8
津山市	65.0	62.4	67.2	67.0	65.5	60.4
対差	△3.0	△2.4	△4.7	△2.6	△1.9	△2.9

大学校の授業以外に、音楽(月～金曜日)、1日あたりどれくらい勉強をしますか。(1日1回以上1時間以上する)

学年	小学校			中学校		
	H26	H27	H28	H26	H27	H28
全国	19.3	19.9	20.6	20.5	18.7	34.3
岡山県	18.3	18.1	19.0	19.2	18.8	32.9
津山市	20.0	17.9	23.3	18.6	23.8	31.6
対差	△1.0	△0.9	△2.7	1.9	△4.0	2.7

#### 岡山県学力・学習状況調査

大画面の授業は、分かっている。

学年	小5	中1	中2	
年度	H29	H30	H29	H30
岡山県	88.4	85.9	88.8	83.3
津山市	90.2	87.0	89.7	83.9
対差	1.8	1.1	0.9	2.0

大算数・数学の授業は、分かっている。

学年	小5	中1	中2	
年度	H29	H30	H29	H30
岡山県	87.7	86.0	84.6	84.3
津山市	85.8	82.9	83.0	82.2
対差	△1.9	△3.1	△1.6	0.9

大音楽(月～金曜日)、1日あたりスマホで動画やメール(1日2時間以上)する。

学年	小5	中1	中2	
年度	H29	H30	H29	H30
岡山県	13.9	19.5	27.2	27.2
津山市	17.0	24.0	28.2	28.2
対差	△3.1	△4.5	△1.0	△1.0

大音楽(月～金曜日)、1日あたりテレビゲームの時間(1日2時間以上)する。

学年	小5	中1	中2	
年度	H29	H30	H29	H30
岡山県	37.0	31.0	40.8	37.4
津山市	39.5	38.7	45.0	44.7
対差	△2.5	△7.7	△4.2	△7.3

### 全国及び岡山県学力・学習状況調査の概要

#### ＜学習状況調査＞

- 読書活動については、継続して朝学習の時間などで取り組み、本に親しませる場づくりは行い、一定の読書時間を確保している。しかし、家庭に帰って読書をしよとする習慣づけの定着にはいたっていない。家庭学習と合わせて家庭の生活習慣の改善を求めていく必要がある。
- 国語、算数(数学)の授業が分かっている肯定的に回答した児童生徒の割合が上がり、授業改善が進んでいる。
- 各校で児童会や生徒会を中心に「あいさつ運動」を計画し、見守りボランティアの方との触れ合い機会があるなど地域に根ざした学校の取組が、「落ち着いた環境づくり」の成果として表れている。
- 家庭学習の時間は県と比較して差が大きく開く結果となった。中学生になっても、学習時間の少なさが顕著に表れている。
- 平日、スマホを使って通話をしたりメールを1日に2時間以上使用している割合は、学年が上がるにつれ、増加している。

## 成果と課題

- 【共通】  
 ○朝学習や放課後学習、補充学習等の継続的な取組により、基礎的・基本的な内容が定着しつつある。  
 ○「家庭学習のスタンダード」を活用し各校で取組を進めているが、また取組が十分でなく徹底と徹底が定着してない。自ら計画を立てて勉強をする児童生徒の割合を高めるにも、家庭と連携して、よりいっそう生活習慣の改善を進めていく必要がある。  
 ○テレビゲームやスマートフォンについて、長時間使用の割合が増えている。学習に向かう時間が少なくなる大きな要因の一つである。
- 【小学校】  
 ○授業改善推進員を中心に市内小学校で授業改善を行い、「授業ファイブに基づいた授業づくり」(岡山型学習指導のスタンダード)が教員に定着してきている。  
 ○学校が進んでも、県との差は開いていないことから、授業改善や校内研究を中心とした取組が定着しつつある。  
 ●小学校3年生の段階で、県との差が大きい。
- 【中学校】  
 ○中学校学力向上プロジェクトチームを設け、基礎的・基本的な学力の定着を図っている。平成29年度は「チャレプリント」を作成し、取組期間と定着度・達成度の確認を行った。同じ期間に同じ内容を統一して行うことで、中学校教員間で学力向上に取り組むという機運が高まってきている。  
 ○学力向上担当が、「落ち着いた学習環境づくり」を基に生徒指導担当と協力しながら、「決めたことをやりきる」とを念頭に、徹底した取組を行っている。  
 ○自分の考えを説明したり友だちの意見を聞きながら説明したりする場づくりを行うことが、まだ不十分である。自分の考えを言いつつとめる活動を、様々な教科で取り入れていく等「書く活動」に取り組む必要がある。

## 課題に対応した改善方法・重点的に取組むこと

- 【市教委】  
 ○作成したプリントが作成できる「問題データベース」や「Web評価支援システム」の活用状況を直ちに確認し、全校での活用を推進する。  
 ○小学校1年生から中学校2年生まで、11月に「秋チェック」問題を実施し、各校が各校採点を行い分析する。(小1と小2と小6は前年度より作成)  
 ○授業改善推進員(津山チーム)とタイアップした授業改善を継続して行い、確かな学力を育成する学習指導の充実に取組む。  
 ○「中学校学力向上プロジェクト」を柱に、家庭学習の充実について取組む。  
 ○学校教育研究センター-数学科部会と連携し、「数学基礎問題(チャレンジ等)」の全校活用に取り組み、基礎・基本の徹底と教職員の機運を高める。  
 ○定期的に家庭での学習時間及びテレビの視聴時間について、実施把握と改善を進めるために実施調査を行い、校長会や担当者などで情報を発信し対策を図っていく。また、家庭学習の取組事例を発信する。
- 【各学校】  
 ○学習ノートや自主学習ノートの好事例を校内で見える化し、家庭学習の充実につなげる。  
 ○宿題カード等を用いた宿題の見える化を進め、一人ひとりの児童生徒への声かけや指導等に活かす。  
 ○「秋チェック」問題の結果を活用し、新着分析を行い、授業改善に活かす。  
 ○毎日、課題に向き合うよう家庭学習の出し方や評価について、研究し改善策を立てる。  
 ○学級活動や個人懇談で、必ず家庭学習やスマートフォン、テレビゲームの使用について協力依頼する。  
 ○学校よりや学年連帯などでデータコントロール等について発信する。  
 ○各校の生徒会やPTA等と連携し、スマートフォンやテレビゲームの使用ルールや家庭のルール等、決めたことは徹底するよう、更なる啓蒙を工夫する。

小中連携で重点的に取組む内容  
 ○1) 学力向上 ○2) 生徒指導の充実 ○3) 1キギャップの解消  
 ○岡山県・全国学力学習状況調査の分析を基にした授業改善の取組と中学校ブロックで、児童の実態や課題の共通理解、指導方法の確認と交流を図る。  
 ○くらしのきまぐら生活規律の徹底を図る。(各ブロックごとに共通)  
 ○新入生「春休みの課題」の効果的な利用。  
 ○授業参観や出前授業による決め細やかな実態把握と情報交換。

保護者・地域へ理解・協力求めること  
 ○家庭学習のスタンダードを基に、家庭学習を可視化し学校感取や個人懇談で協力を得る。  
 ○自主学習への取組を通して、予習と復習の意識付けを行う。  
 ○「児童生徒の家庭生活実態調査」や「チャレンジハッピーデー」の取組を通して生活習慣を見直し、学習習慣の定着につながるよう家庭の協力を得ようとする。  
 ○学校での取組や児童・生徒の姿を掲示したり通信などで発信したりして情報を伝える。  
 ○地域ボランティアの方に協力してもらい、体験活動に取組を積極的に。

